

# 青

二年

画数 8  
筆順 一 十 卩 青 青

オン セイ・シヨウ  
クン あお・あおい

成り立ち



「月」のひかりの「あおじろい」いろをあらわした字です。「あおい」とか「あお」といういみの字です。

中国では、「あおい」といういみのことばを「セイ（呉音はシヨウ）」といいました。そこで、セイという音の「生（生のもとのかたち）」と「月」とをくみあわせてこの字をつくりました。

中国では、青をはる、赤をなつ、白をあき、黒をふゆのいろとし、これにくにのいろの黄いろをくわえて「五色」といいます。

〔旧字体は、青で、生と丹との会意・形声字である。青色の顔料は丹石から取るので、「丹より生ず」としたものだといふ。しかし、これでは一年生には通じない。〕

使い方

▽「青春」ということばは、「白秋」にたいすることはてす。秋をあらわすいろが白であるのにたいして、春をあらわすいろは「青」だからです。

▽「青葉」といいますが、ほんとうのいろは「みどり」です。でも「みどりが青い」といいますね。

熟語例

▽青空（青い空。はれたった空）

▽青葉（青々とした葉。「わか葉」のこと。「新緑」ともいいます。）

▽青くさい（青くさのにおい。青くさのようなにおい。また、「みじゆく」「けいけんがたりない」といういみにつかわれます。〔例〕青くさいかんがえ）

▽青春（「春」のこと。ふつうは「人生の春」のいみにつかいます。〔例〕青春時代（わかいころ）

▽青果（やさいやくだもの。「青もの」ともいいます。〔例〕青果いちば）

▽群青（あざやかな青いろ。「あいろ」にちかい。）

▽緑青（銅のひょうめんにできるさび。青もしくは緑いろをしています。）

# 夕

二年

画数 3  
筆順 ノ ク タ

オン セキ  
クン ゆう

成り立ち



お月さまの「月」という字のはんぶんのかたちをあらわした字。やまからお月さまがかかったところをあらわしたもので、「ゆうがた」といういみをあらわした字です。

お日さまのでるところをあらわした「旦」という字が「あさ」で、お月さまのでるところをあらわした「夕」が「ゆう」です。いまは「元旦」とねんがじょうにつかうだけの「旦」ですが、むかしは「旦夕（あさゆう）」というように「旦」と「夕」とは「対」になる字でした。「夜」という字にも、この「夕」がつかわれています。

使い方

▽ひるはあつくても、夕方になるとすずしいかげがふいてよいこちです。

▽そういうことは一朝一夕にできることではありません。ふだんのどりよくがひつようです。

熟語例

▽夕方（お日さましずんで、お月さまがでるころ。日のくれがた。夕ぐれ。夕べ）

▽夕日（夕方のお日さま。にしのそらにかたむいたお日さま。また、夕方の日のひかりのこと。）

▽夕立（なつのにわかあめのこと。夕方におおいので「夕立」といいます。おおくかみなりがなります。）

▽夕映え（夕日のひかりをうけてあたりがてりかがやくこと。「夕焼け」ともいいます。）

▽一朝一夕（ひと朝や一ばんといういみで、わずかなじかん、または日日のことをいいます。）

特別な使い方

▽七夕（七月七日の夕方のたなばたさまのおまつり。七月七日の夕「をちぢめて「七夕」とかき、「たなばたまつり」のいみをあらわしたものです。）